

男女共学化の経緯と施設設備の整備等について

令和3(2021)年10月

本校は、令和4年度入学生から年次進行で共学化するとともに、進学に重点を置く単位制の導入をいたします。これまでの経緯と共学化に伴う施設設備の整備等についてお知らせいたします。

1 これまでの経緯について

(1) 第二期県立高等学校再編計画（平成29年11月7日策定）

栃木県教育委員会では、平成30年度以降の中学校卒業生数の急激な減少や高校教育に対するニーズの多様化など、本県の高校教育を取り巻く社会環境の変化に対応するため、『第二期県立高等学校再編計画（以下、「再編計画」という。）』を策定しました。計画期間は平成30年度から平成34（令和4）年度までの5年間です。

「男女別学校の共学化については、各高校や地域の実情等に応じて行う」とし、基本的な考え方として次の2点を示しました。

ア 共学化については、共学校と別学校の共存を望む県民世論にも配慮しながら、各高校や地域の実情等に応じて行います。

イ 共学化に当たっては、それぞれの学校が培ってきた特色や教育の成果をできるだけ引き継ぎながら、教育内容の充実を図ります。また、新たな教育内容・方法等を積極的に導入し、より一層、魅力ある学校づくりに努めます。

加えて、再編計画の推進・実行に関し、「男女別募集定員に片寄りのある地区については、共学化を行います。」「平成34（令和4）年度に宇都宮中央女子高校を共学化します。また、その際、単位制を導入します。」と明記しました。

(2) 宇都宮中央女子高新校設立準備委員会（平成29年12月1日設置）

再編計画を受けて、本校内に『宇都宮中央女子高新校設立準備委員会（以下「準備委員会」という。）』を設置しました。

校長を委員長とし、学識経験者、地元関係者、学校関係者及び県教育委員会事務局職員等が委員となり、令和元年4月から令和3年3月までの6回にわたる審議において、それぞれのお立場から貴重な御意見をいただきました。また、準備委員会の下部組織として教職員による実務作業部会を設け、様々な検討を行いました。

準備委員会での審議の結果、『栃木県立宇都宮中央高等学校設置計画』を策定しました。

(3) 栃木県立宇都宮中央高等学校設置計画（令和3年3月策定、4月公表）

『栃木県立宇都宮中央高等学校設置計画（以下「設置計画」という。）』の概要は次のとおりです。詳細は本校のホームページをご覧ください。

ア 新校の基本的枠組み

(7) 第二期県立高等学校再編計画

令和4年度に男女共学化するとともに、進学に重点を置く単位制を導入し、進学校の役割を担える高校として整備する。

(4) 新校名及び命名の趣旨 「栃木県立宇都宮中央高等学校」

伝統ある「中央」の名称への地域や卒業生の愛着や期待を引き継ぐとともに、時代を支える中心的な人物を輩出するという期待を込める。

(5) 設置及び開校年月日 令和4年1月1日設置、4月1日開校

(エ) 設置学科等 普通科・単位制（1学年6学級240名）、
総合家庭科・単位制（1学年1学級40名）

イ 教育目標等

(7) 教育目標 社会の発展に貢献する情操豊かな人間の育成

(4) 目指す学校像

- 次代を牽引するリーダーにふさわしい品格と深い教養を身に付け、理性的に物事を判断し行動する生徒を育てる学校
- 向上心と粘り強さを持ち、心身を鍛え、自らを高め続ける生徒を育てる学校
- 多様化・複雑化する社会の課題に向き合い、主体性を持って他者と協働し、未来を創造する生徒を育てる学校

(5) 生徒指標 高潔 情熱 進取

ウ 教育課程編成の基本方針

- 教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。
- 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な教科・科目の開設や、学習習熟度別少人数授業等を実施し、個に応じた指導の充実を図る。
- 学問への探究心を高められる発展的な学習内容の科目や難関大学への受験にも対応できる科目を開設する。

エ 特色ある教育活動

(7) 進学に重点を置く単位制の利点を生かした教育課程の編成と個に応じた指導体制の確立

- 生徒の興味・関心や難関大学をはじめ希望する大学への受験に対応できる多様な選択科目の開設
- 学問への探究心を喚起する発展的な内容を学べる学校設定科目の開設
- 学習習熟度別授業や少人数授業等のきめ細かな学習指導の展開

(イ) グローバル社会における課題解決への実践的な行動力を育む教育の推進

- 自文化・異文化の理解を深める地域連携活動と国際交流活動
- 課題解決に向けた論理的思考力や判断力、表現力を高める探究活動
- ICTを活用した主体的で発展的な学びの推進

(ウ) 豊かな人間性と社会性を育む特別活動等の充実

- リーダーシップ・フォロワーシップを育む生徒主体の学校行事や生徒会活動
- 個々の力を十分に発揮できる充実した部活動等
- 社会貢献力を高める地域貢献活動及びボランティア活動等

オ 校歌、校章、制服

(ア) 校歌 作詞：佐々木幹郎氏、作曲：西村朗氏、題：虹色の夢

(イ) 校章 宇都宮中央女子高校の校章を引き続き使用

(ウ) 制服 男女ともスーツタイプ（宇都宮中央女子高校の制服を一部継承）

「リボン／ネクタイ」と「スカート／スラックス」は選択制

カ 施設・設備（別掲）

2 施設設備等の整備について

設置計画に基づき、開校に向けて施設設備等の整備を行っています。通常の教育活動を行いながらの整備であり、生徒の安全を最優先しながら学校生活に支障のないよう複数年度にわたり順次実施しているため、一部は令和4年度に実施します。

令和3年10月時点での整備状況等（今後の予定を含む）は次のとおりです。

(1) 西棟の改修・整備（令和4年3月終了予定）

西棟（旧衛生看護科棟）の内部を改修し、少人数授業に対応できる講義室4室、各種講演会や集団討論・プレゼンテーションなどに活用できる大講義室1室を整備しています。大講義室は1学年分の生徒全員が収容できる広さです。

(2) 体育館の新築（令和4年3月終了予定）

授業や部活動等の充実のため、正門ロータリーの北東側に第二体育館を新築しています。既存の第二体育館は武道場として残し継続使用します。

(3) 部室棟の新築（令和4年度実施予定）

男子運動部活動の設置に伴い部室棟を新築します。

(4) グラウンドの改修・整備（令和4年度実施予定）

現行のグラウンドの中央部にある段差を解消し、野球場・サッカー場・陸上トラック等を整備します。

(5) 弓道場の新築・移転（令和3年10月落成、11月使用開始）

グラウンドの改修・整備に伴い弓道場を移転することとし、講堂兼体育館（第一体育館）の南側に新築しました。旧弓道場は解体し、跡地はグラウンドの一部となります。

- (6) **トイレ及びプール更衣室の改修**（令和4年3月終了予定、屋外トイレは5月まで）
既存の女子トイレの一部を男子用に改修するとともに、女子トイレも含めて洋式化・床の乾式化・バリアフリー化を進めます。屋外トイレは取り壊して同じ場所に新築します。

(7) **その他の整備**

ア 空調設備（エアコン）の設置拡充

熱中症対策として、全普通教室（21室）には既に設置済みです。特別教室については、令和2年度から順次増設しており、令和3年度末までに西棟の講義室・大講義室も含め16室に拡充します。

イ ICT環境の整備

電子黒板を令和4年度までに31室（全普通教室21室＋西棟の講義室・大講義室を含め特別教室10室）に設置し、既存の移動式電子黒板とともに有効活用して参ります。また、令和3年度末までに生徒人数分のタブレット端末を用意します。

ウ 駐車場の拡張整備

本校は大規模校の割に外来者駐車場が狭く、来校の方々にご不便をお掛けしています。今般の諸整備に合わせて、既存駐車場の拡張と舗装化を検討中です。

3 進学に重点を置く単位制の導入について

本校では共学化に合わせて、令和4年度の入学生から、本県県立高校では初めての「進学に重点を置く単位制」を導入します。

学校生活のリズムは基本的には今までと変わらず、生徒はクラス単位で授業に取り組み、多くの学校行事や部活動等を通して充実した学校生活を過ごすこととなります。

一方で、単位制高校では一般的な学年制高校に比べ教員が多く配置されるため、多様な選択科目の開設や学習習熟度別少人数授業の充実が可能となります。個に応じた学び、きめ細かな指導が展開できることが単位制の最大の特長です。

特に進学に重点を置く単位制高校では、希望する大学への進路実現に向けた応用力や実践力向上のための科目、学問の興味・関心や探究心を高める発展的な学習内容の科目などを開設します。

生徒は、自分の学習計画に基づいて幅広く開設された選択科目の中から主体的に科目を選択し学習することを通して、意欲や能力を高め難関大学への進学を始め一人一人の希望進路の実現を目指します。

なお、令和4年度の2、3年生につきましても、授業時間の変更（「45分授業×週35コマ」から「50分授業×週34コマ」へ）等により学習指導を充実させたり、新しい施設設備を使って諸活動を更に活発化させたりするとともに、教員増のメリットを活かしたきめ細かい指導を行って参ります。